

～震災後6ヶ月の地域の状況・事例とデータ～

〈震災後の地域の状況〉

震災後身体が動き辛くなった事例 避難所で4週間生活。床からの立ち上がりは、何とか可能なレベル。避難所内を杖歩行しようとしても、他者の荷物があり転倒の危険性がある。避難所生活では、殆ど寝て過ごしていたため身体機能が低下し歩行が不安定となった。自宅に戻ったが以前のように生活できるか不安...

日常生活事例 震災前は廊下の手すりを利用し何とか介助にて歩行、排泄も自宅トイレにておこなっていた。津波の被害に遭い避難所にて生活する中で筋力低下が進行。立位困難となり、家族による介助負担が増加。介護用ベッド・ポータブルトイレの導入、また、ヘルパーサービスを導入した。

認知症をお持ちの方の事例 震災後、ライフライン寸断によるADL面での混乱強く、トイレの水が流れないこと等から排泄ができなくなった。震災による精神的なショックも大きく臥床傾向が顕著となった。家族に対する確認作業や被害的な言動、暴言が一時的に顕著となり、認知症も進行した。

震災被害により転居を余儀なくされた事例 津波の被害で震災後、二回の転居。住環境の変化・地域性の変化、震災前まで定期で利用していた通所サービスが変更され、気心の知れた方々とのコミュニケーションが取れなくなり精神的に塞ぎこむ時間が多くなった。また、主治医及び薬剤の変更にもなるADLの低下など、生活が落ち着くまで約4ヶ月かかった。

仮設住宅へお引越しされた方の事例 津波により家が流され避難所から娘様宅に2ヶ月滞在。高齢で足腰が弱い事もあり、避難所生活や環境の変化に適応できず、体調がすぐれない日々が続いた。初回訪問のときは、仮設住宅に転居したばかりだった。室内の移動・立ち上がりにも苦慮するほど機能低下をきたしていた。特に入浴に関しては自力でおこないたくない意欲はあるが、浴室の段差、浴槽の高さ、洗い場の狭さ、手すりの位置など仮設住宅の環境面での問題も大きかった。

〈震災後こんな不安を耳にします〉

震災後、思うように動けなくなってきた...

介助する量が多くなってきた気がする...
家族構成が変わった...

認知症が進んだかも...

新しい住居(仮設住宅・アパートなど)では動き方が分からず動くのが怖い

停電になった時に吸引器が使えなかった、電動ベッドやエアマットも...また停電になったらどうしたらいいか不安...

私たちは、生活環境や人的(家族構成など)環境が変化しても、その変化した環境に適応し生活を営んでいく能力があります。ただ、お身体に障害のある方や認知面に障害のある方などは、なかなかその新しい環境に適応することができず、お身体や認知面の低下が進んでしまう場合があります。今回の震災でも急激に生活・人的環境が変わったことで、環境の変化(避難先・仮設住宅・家族構成の変化した家庭)に適応できず、体調を崩したり、身体・認知機能・生活動作の低下をきたしている方が多いようです。また、停電などで吸引器、電動ベッドやエアマットなどが使えなくなった経験をされた方は、今でも停電のときの対応について不安を抱えていらっしゃると思います。

〈フォーレストができること!!〉

震災後身体が動き辛くなった方への対応
まずは無料相談訪問し身体機能や生活動作を確認させていただきます。状況に応じてどのような内容のリハビリが良いかや、ご自宅で行うリハビリ(訪問)・通所で行うリハビリどちらが効果的かなど提案いたします。また、ご自宅内での動作を確認しますので必要な福祉用具などの提案をさせていただくこともできます。一日も早く震災前の生活を取り戻せるよう、お手伝いさせていただきます。

日常生活面への対応
環境の変化に伴う体調不良、身体的機能低下等に対し栄養、排泄、睡眠といった健康面での支援をさせていただきます。医師の指示の基、療養指導を中心に身体状態の観察から御本人様及び御家族様の精神的な支援をさせていただきます。限られた環境の中、専門職が介入することで現状の問題点を一緒に考え共に共感し解決に近づけていきます。

認知症をお持ちの方への対応
生活環境の激変に伴い、今まで通り地域のコミュニティが成立しなくなり強い孤独感の中、症状の悪化をまねく例は少なくありません。介護の大変さはなかなか他人には伝わりません、しかし介護者が健全で気持ちにゆとりをもつ事が大切です。私達は人と人との繋がりを大事に心の通った支援で地域のお役に立たさせていただきます。

震災被害により転居を余儀なくされた方また、仮設住宅へお引越しされた方への対応
仮設住宅ではトイレや浴室などに高い段差などがあり、移動するのが困難になる事例が出ています。転居などによる住環境の変化に対して、弊社では、看護師・理学療法士・作業療法士・福祉用具専門相談員らが協力し、安心して生活できる環境の提案をいたします。お困りの方がいらしたらご連絡ください。

震災から半年経過し、身体面と生活環境に対して、実際、どの位影響しているかを調査しました。

【震災調査項目の内容】

- 身体面**
 - 日常生活動作
 - 身体機能
 - 認知機能
- 環境面(生活面)**
 - 家族構成の増減
 - 転居歴と回数
 - 住民票の変更

当事業所における調査延べ件数 **1118件**
調査項目の内、1項目でも変化を認めた件数 **384件**

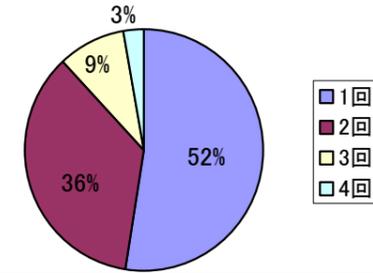


震災により**15%前後**の利用者に何らかの変化が認められました。この結果に対して地域へ何ができるのかを日々模索する毎日です

変化を認めた384件の内訳

調査項目	変化あり(件)	割合(%)
日常生活動作の変化	166	14.8%
身体機能の変化	175	15.7%
認知機能の変化	102	9.1%
家族構成の変化	46	4.1%
転居歴	219	19.6%
住民票の変更	10	0.9%

『転居歴あり』219件中の転居回数割合



『転居歴あり』219件中、身体項目に変化があった件数 **73件(33.3%)**

転居歴-身体変化あり(73件)の内訳

	変化あり	割合
日常生活動作の変化	60件	82.2%
身体機能の変化	55件	75.3%
認知機能の変化	44件	60.3%

※転居による環境面での影響は、日常生活動作・身体機能・認知機能が重複して問題を抱えるケースが非常に多い。



これからの対応

震災時の対応として最低限必要な情報を1枚の用紙に集約した【利用者様緊急時評価表】を作成。さらに【緊急時行動マニュアル】も作成し、速やかに利用者様の身体の状態・住環境・ライフラインの状態がチェックできるようにしました。また【災害時安否確認レベル】・【災害時ニーズ分類評価表】を新たに作成しました。これらにより、今回の震災におけるデータの集計・分析を実施し各事業部が災害時に混乱することなく迅速に適切な行動がとれるようになっております。先の台風時は宮城県でも停電の恐れがありましたが、上記の行動マニュアルにそって、訪問事業部では、呼吸器及び吸引器を使用の利用者様への電話連絡、福祉用具事業部ではエアマットご使用の利用者様全員へ停電時の対応、体位交換の方法等について電話連絡をおこないました。

停電時も安心して生活できるように...

この半年フォーレストでは電動吸引器を使用している利用者及び関係各所に手動式吸引器の推奨をしてきました。必要とされている多くの方々に手動吸引器を通して安心、安全を届けたい想いで県の指導の下、看護師が直接指導するという方法で対応してきました。実際在宅の現場では物の存在は知っていたが入手方法が分からず、この度の当社の取り組みに心から感謝して頂きお言葉の頂く場面も数多く見られました。今後も私共はこの取り組みを継続し心の通った支援で安心、安全をより明確にしていきたいと考えております。フォーレストでは、2機種試し、現在一般的に使用されている足踏み式は、体重の軽い介護者では操作が困難でした。そのため現在弊社推奨は、手元で吸引の調整・確認ができる(手動タイプ)で価格も安価です。「実物を見てみたい。」「使い方を知りたい。」というお客様はどうぞご相談ください。



手動式吸引器

発電機



ベッドへの対応：ベッドの復旧として発電機を使用しフラットな状態にお戻しいたします。今回フォーレストで準備した発電機は「インバーター内蔵式」のもので、*電圧変動に神経質な精密機器にも安心してご使用できる発電機です。

エアマットへの対応：マット内の空気が抜けきる前に耐圧分散機能を持つ特殊素材のマットレスへの変更をいたします。

排泄用品：【オムツ・パッド】は2週間分以上の【備蓄】を致しました。

保清に関する商品：ゴム手袋・お尻ふき・ウェットティシュー・ドライシャンプーなどもご用意いたしております。

嚥下困難の方の水分補給：【ジェルタイプ飲料水・ゼリー食】をはじめ様々な【介護食・とろみ剤】をご用意いたしております。

～お困りな時・不安な時・ご連絡ください～

「震災後、思うように動けなくなってきた...」「介助する量が多くなってきた気がする...」「認知症が進んだかも...」「新しい住居(仮設住宅・アパートなど)では動き方が分からず動くのが怖い...」「停電になった時に吸引器が使えなかった...」「電動ベッドやエアマットも...また停電になったらどうしたらいいか不安...」フォーレストでは、看護師・理学療法士・作業療法士・福祉用具専門相談員が協力し、環境の再設定や介護手法の伝達・などをご提案いたします。



(有)在宅支援チームフォーレスト

仙台市宮城野区岩切字谷地15-1

TEL022-396-0030 FAX022-255-1161

<http://www.team-forest.net/>

仙台 在宅支援 検索 ブログ更新中!!

サテライトケアセンター-仙塩居宅介護支援事業所

TEL022-346-8200 FAX022-346-8201

サテライトケアセンター-仙台東居宅介護支援事業所

TEL022-288-3370 FAX022-288-3371

フォーレスト通信 震災特別号 VOL.2



震災から半年が経過しました。

生活は落ち着きを取り戻しているのか...?

あの大地震から約半年が経過しました。瓦礫は大分減り、道路も舗装され、地割れ等も目立たなくなってきました。ライフラインの復旧・物流の回復のため物資にも困らなくなり地域の復旧は進んできているように見えます...

しかし、本当に生活は落ち着きを取り戻しているのでしょうか? 私たちは日々の活動で、地域や利用者様のお宅を訪問させていただいていると、私たちの地域において様々な問題が生じていることに気づかされます。

日々の臨床現場で感じていること。

震災後まもなく私たちは「何か変だな」と違和感を持ち始めていました。弊社の事務所内では、看護師・理学療法士・作業療法士・福祉用具専門相談員らが日々の臨床現場に関する話を取り交わしています。その会話の中から地域や利用者様の変化を「はっきり」と感じるようになって来ました。利用者様の中には震災後から徐々に体調が悪くなってきたとおっしゃる方も多いように感じます。

利用者様の現在の状況を調査・分析しました。

今回の震災は地域の「かたち」を変え、介護現場や利用者様を取り巻く環境をも変えてしまいました。その中で、フォーレストでは各専門職が連携し「お身体に障害を持つ方々・介護をされているご家族様達へ何が出来るのか。どうすればお役に立てるのか...」を考えながら日々活動しています。

まずは、「わたしたち」ができることを提示させていただく事から始めたいと考えています。その一環として震災から半年で利用者様の状況がどのように変化したかを「調査・分析」しました。見開きをごらんください。